

令和4年度 野生動物救護実績について

自然環境保全センター（厚木市七沢）では、県民の皆様によって救護され、運び込まれた傷病鳥獣（傷ついたり弱ったりしている野生の鳥類や哺乳類）を収容して治療し、野生に返す（放鳥、放獣）仕事を行っています。

令和4年度の野生動物救護の実績をお知らせします。

1 令和4年度の鳥類・哺乳類救護状況

区分	種類	数（頭、羽）	数の割合
鳥類	41	208	93.3%
哺乳類	3	15	6.7%
合計	44	223	100.0%

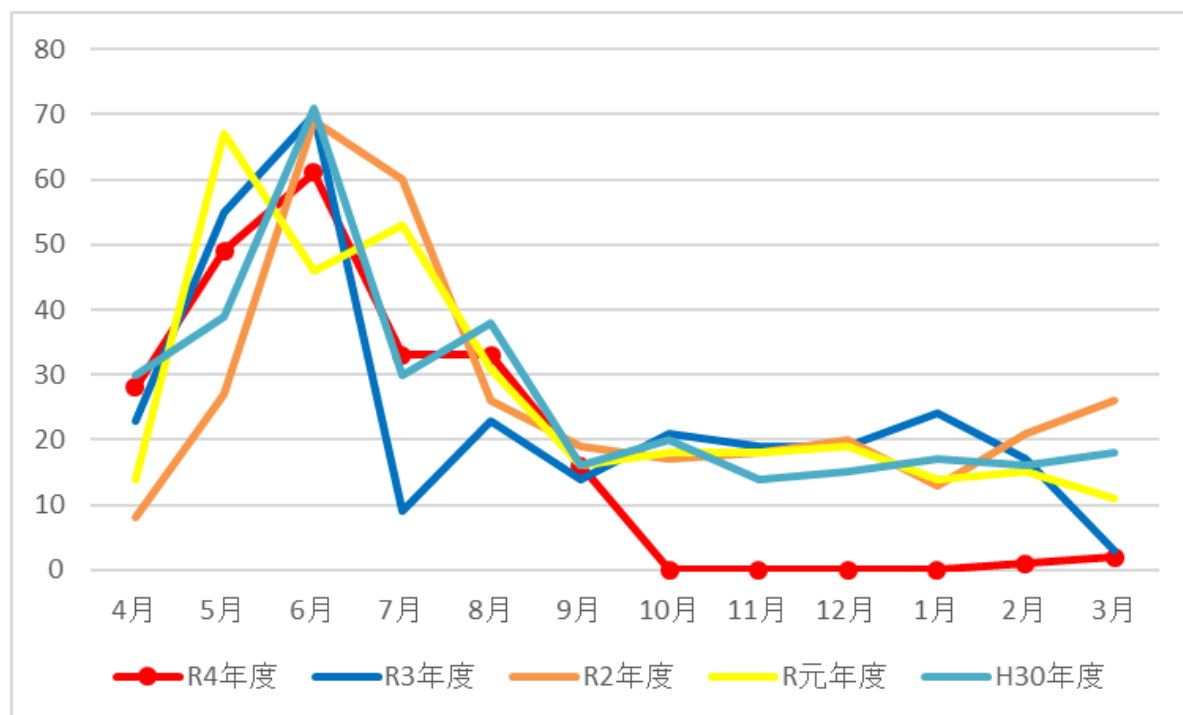
参考（過去5ヵ年の救護状況）

(1) 年度別救護数

年度別	令和4年度		令和3年度		令和2年度		令和元年度		平成30年度	
鳥類	208	(7)	270	(9)	280	(22)	275	(23)	284	(23)
哺乳類	15	(0)	27	(1)	44	(3)	47	(2)	40	(2)
計	223	(7)	297	(10)	324	(25)	322	(25)	324	(25)

* () はへい死体で持ち込まれたもので、内数

(2) 月別救護点数



(3) 救護数上位 10 種

年度別	令和4年度		令和3年度		令和2年度		令和元年度		平成30年度	
	種名	頭、羽	種名	頭、羽	種名	頭、羽	種名	頭、羽	種名	頭、羽
1	ツバメ	46	スズメ	46	ツバメ	33	ツバメ	45	ツバメ	49
2	スズメ	37	キジバト	35	スズメ	33	タヌキ	37	スズメ	43
3	キジバト	22	メジロ	18	キジバト	29	キジバト	29	タヌキ	33
4	ムクドリ	13	ムクドリ	18	ムクドリ	26	スズメ	29	キジバト	30
5	タヌキ	11	シジュウカラ	16	シジュウカラ	24	シジュウカラ	17	ムクドリ	20
6	シジュウカラ	10	ツバメ	16	タヌキ	23	ヒヨドリ	15	ヒヨドリ	18
7	メジロ	9	ヒヨドリ	16	アブラコウモリ	17	カルガモ	14	メジロ	11
8	トビ	8	タヌキ	16	ヒヨドリ	16	メジロ	14	トビ	8
9	ハクセキレイ	8	インヒヨドリ	11	メジロ	14	ムクドリ	14	モズ	7
10	ヒヨドリ	6	カルガモ	9	トビ	7	フクロウ	8	シジュウカラ	7
									アオバト	7

(4) 放野率・死亡率 (%)

	令和4年度			令和3年度			令和2年度			令和元年度			平成30年度		
	放野	死亡	その他	放野	死亡	その他	放野	死亡	その他	放野	死亡	その他	放野	死亡	その他
鳥類	39.8	60.2	0.0	39.8%	60.2%	0.0%	41.1	45.7	13.2	54.4	40.1	5.6	44.4	46.8	8.8
哺乳類	13.3	80.0	6.7	38.0%	61.6%	0.5%	47.4	50.0	2.6	24.4	53.3	22.2	39.5	13.2	47.4
全体	38.0	61.6	0.5	38.0%	61.6%	0.5%	41.9	46.3	11.8	49.8	42.1	8.1	42.1	45.5	12.4

*各年度の3月31日時点（へい死体除く）

*その他は治療中・終生飼養・長期飼養に移管したものなどを含む。

2 令和4年度の特徴

全体の救護原因の内、建物への衝突などといった、主に人間が関わっている救護原因は 43.0%です。

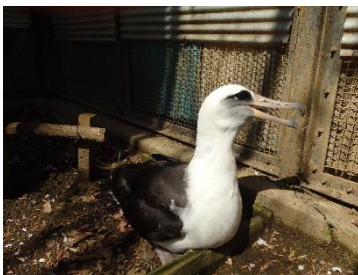
- * 2022年9月26日～2023年1月23日まで、神奈川県伊勢原市より高病原性鳥インフルエンザを発症したハヤブサが持ち込まれたため、神奈川県自然環境保全センターでの傷病鳥獣救護新規受入れを休止しました。なお、現在も鳥類の受入れは休止しています。
- ** 2022年9月30日 神奈川県伊勢原市より高病原性鳥インフルエンザを発症したハヤブサが持ち込まれたため、防疫措置のため飼育中の傷病鳥獣を全頭羽殺処分となりました。
- *** 前年度より6月20日までと2022年9月30日～ 高病原性鳥インフルエンザ感染予防の観点から各横浜市立動物園では鳥類の受入れを休止しています。
- **** 前年度より6月20日までと2022年10月13日～ 高病原性鳥インフルエンザ感染予防の観点から川崎市立夢見ヶ崎動物公園では鳥類の受入れを休止しています。

(鳥類)

- ・保護された鳥類の内スズメ、キジバト、ツバメなど人間の近くで繁殖・生活している種類が上位を占めています。
- ・珍しい例としては令和4年4月にコアホウドリとミゾゴイが保護されました。

(哺乳類)

- ・哺乳類はタヌキの保護件数が多く、疥癬症や車による交通事故が多いです。

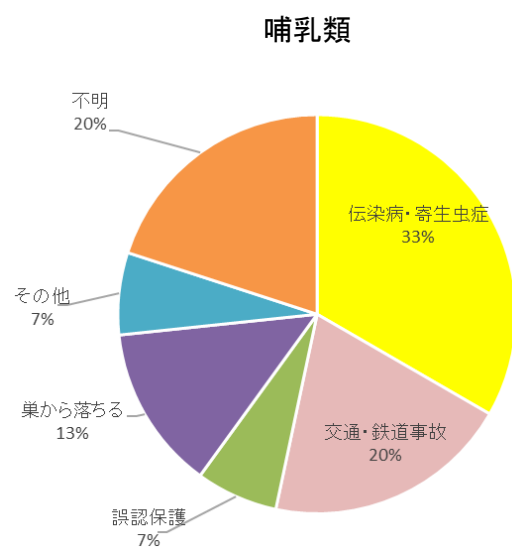
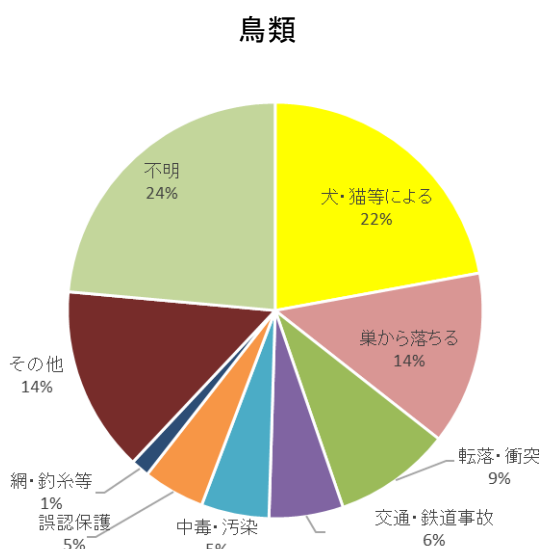


コアホウドリ



ミゾゴイ

参考（令和4年度の保護原因）



3 ボランティアの活動

- ・当センターには野生動物の飼養や治療・リハビリの補助、環境教育や普及啓発活動等を行っている多くの野生動物救護ボランティアの方々がいらっしゃいます。
- ・野生動物救護ボランティアには一般ボランティア（注1）、短期飼養ボランティア（注2）および長期飼養ボランティア（注3）があります。令和4年度の一般ボランティアの活動人数は年間延べ340人で、毎年多くの方々にご参加いただいています。また、長期飼養ボランティアに新たに飼養を依頼した野生動物の数は0件になります。

注1 一般ボランティア

当センターに保護されている鳥獣のお世話や救護動物特別公開などの普及啓発活動を行っていただいております。（令和4年9月27日より保全センターでの活動を休止しています）

注2 短期飼養ボランティア

主に、毎年5月から8月くらいまでの間、シジュウカラ、ツバメ、ヒヨドリなど主に巣立ち前の野鳥のヒナ等のお世話やすぐに放鳥・放獣できない動物のリハビリ訓練などを行っていただいております。

注3 長期飼養ボランティア

翼が折れているなどの理由により野生に返せない鳥獣を、生涯にわたり飼養を行っていただいております。

参考（過去5年間のボランティア活動状況）

(1) ボランティア登録状況

(人)

年度別	令和4年度	令和3年度	令和2年度	令和元年度	平成30年度
ボランティア登録数	129	132	146	191	228

*ボランティア登録数は、各年度の3月31日現在

(2) 一般ボランティアの年度別活動状況

(延べ人数)

年度別	令和4年度	令和3年度	令和2年度	令和元年度	平成30年度
活動延べ人数	340	633	690	1,083	1,185

(3) ボランティアへの飼養依頼

(件)

年度別		令和4年度	令和3年度	令和2年度	令和元年度	平成30年度
鳥類	短期	0	1	0	1	1
	長期	0	0	3	1	3
哺乳類	短期	0	0	0	0	0
	長期	0	0	0	0	0
合計	短期	0	1	0	1	1
	長期	0	0	3	1	3
総計		0	1	3	2	4

*各年度新たに依頼した分のみ掲載